

造影 MRI 検査 の 説明文書

1. 検査名

造影 MRI 検査部位（ ）

2. 検査の目的・必要性・有用性

造影 MRI 検査とは、ガドリニウムという物質を含んだ薬を血管内に注射して行う検査です。造影剤は、血流による組織の情報量を増やすことで病気を検出しやすくし、病気の性質をより詳しく診断するために使われます。造影剤を使わなくても検査はできますが、病気や検査部位によっては、正確な診断を行うために造影剤が必要です。安全な薬剤とされていますが、まれに副作用が生じることが知られていますので、以下に書かれている事項を確認してください。

3. 検査の内容

からの検査となっています。

【水分・食事の制限について】

上腹部検査 (MRCP 含む)	検査 4 時間前から絶食 (水・お茶は少量飲水可能)
下腹部検査 (骨盤部含む)	検査 4 時間前から絶食 (水・お茶は少量飲水可能) 検査 30 分前から排尿禁止
腹部以外の部位 (頭部・胸部・手足等)	食事制限なし
造影検査 (すべての検査部位)	検査 4 時間前から絶食 (水・お茶は少量飲水可能)

通常、造影剤は腕の静脈に針を刺して注入します。

患者さんの体重によって注入量は異なりますが、おおよそ 5～20ml です。

造影剤は、腎機能が正常であれば、24 時間後には 90%以上が尿中に排泄されます。

一方、腎機能の悪い患者さんは、ガドリニウム造影剤による腎性全身性線維症 (NSF) の発症が報告されているので十分注意が必要です。

特に、透析中の方は MR 造影剤を使用出来ません。

不明な点は、主治医や検査担当医にご相談ください。

尚、患者さんの腎機能状態を事前に血液検査で把握しておりますのでご安心ください。

造影剤は尿と一緒に体外に排泄されますので、検査後はいつもより水分を多めにとってください。また、帰宅されてからの食事や入浴には制限はございません。

4. 検査に伴う危険性とその発生率

造影検査において、造影剤使用による副作用が起こることがあります。

以下の既往のある方は造影剤の副作用の生じる頻度が高く、症状が強く出る場合もあり、造影検査を行なわないことがありますので、問診票の記入は、正確にお願いします。

1. 今までに造影剤による副作用の症状を起こしたことのある方
2. 気管支喘息などのアレルギー性疾患のある方
3. ほかの薬剤過敏症やじんま疹などのアレルギー歴のある方

【起こり得る副作用・症状】

- 軽い副作用　：　（頻度は、1～2%以下）
・吐き気・嘔吐・頭痛・めまい・かゆみ・くしゃみ・発疹・発熱　など
- 重い副作用　：（頻度は稀で1万人に1人以下）
・呼吸困難・嘔声（声がかれる）・意識障害・血圧低下・腎不全
・腎性全身性線維症（NSF）など
- 数時間から数日後に現れる副作用：
・発疹・かゆみ・むくみ・吐き気・のどのイガイガ感・咳・冷汗・動悸
・脱力感・めまい　など

体質により、検査終了後に上記のような副作用が現れることがあります。副作用は、検査後10分以内がほとんどですが、ごく稀に、数時間から数日後に現れることがあります。

5. 偶発症発生時の対応

造影剤を注入する際、血管外に造影剤が漏れ、注射の部位が腫れて痛みを伴うことがあります。通常は時間がたてば吸収されますので心配ありませんが、漏れた量が非常に多い場合には、別の処置が必要になることもあります。その際の医療行為は通常の保険診療にて行われます。

6. 検査に対しての自己決定権について

この検査に対し同意されるかどうかは、患者さんご本人が決める権利を持っておられますので、あくまでご本人の意思でご判断ください。

7. 検査の同意を撤回する場合

一度 同意書にご署名された場合でも、当日まで同意を撤回することも可能です。その場合は、主治医に申し出てください。

8. 連絡先

この検査について質問がある場合は放射線科へご連絡ください。

また検査を受けた後に副作用が発生した場合には、各診療科、または救急外来へご連絡ください。

【検査・症状のお問い合わせ】

加古川中央市民病院　（代表）

TEL：079—451—5500